

[第 123 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

コロナの感染拡大で会場が使えない場合は中止になります

令和 4年 2 月

NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 4年 3月 5日(土) 15時~17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.58~ (用意します)
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)



本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

2月5日(土)午後、第122回人間学塾を開きました。今回は大雪のため数名が来られず、初参加の若い男性を含んで7人でした。

今回から藤樹先生の最晩年の著作『鑑草』です。これは、先生が女性の生き方について中国の故事を参考に書かれたもので、儒学、陽明学と共に仏教思想も入っている興味深いものです。まず、加藤盛一校註のものを輪読し、次に

ネットで公開されていた青山明史現代語訳も読みました。

今回は序文です。大意は以下のとおりです。「世の中のいろいろな幸福を比べてみて、三段階に分けるとすれば、最上は身体の健康と心の安寧そして子孫の繁栄すること、二番目は長生きすること、最後が出世して裕福になることです。

これらの幸福の種は明德仏性(明德は儒教、仏性は仏教の用語で、同じものを表している。全ての人に生まれつき備わっている良心のこと)です。明德仏性を明らかにして(行動としてあらわして)、どんなことにも執着せず、怒らず、頑固にならず、不機嫌になることがないようにしましょう。親への孝行に真心を尽くし、夫には素直に従い、子供を正しく育て、夫の兄弟一族にはそれぞれ親切に接して、家の中の使用人には思いやりを持ち、乞食や身分の低い人にまでも慈悲を持って恵み与えることが明德仏性の修行になるのです。この修行に真心あれば、人は必ずそれぞれが生まれ持っている幸運を得ることは間違いありません。…」

2月に北京で冬季オリンピックが行われましたが、1920年にその北京へ行き、貧困に喘ぐ女子を対象とする実務教育機関を作って救い、地元で「北京の聖人」呼ばれ慕われたという偉人が高島市出身の清水安三さんです。安三さんは藤樹先生に憧れていました。安三さんとお母さんの深い愛情には心を打たれるものがあります。安三さんが藤樹先生の言葉「大孝を行い、しばし忍べば、小孝もまた達し得ん」を実行されたことを大孝と小孝の図で示して説明しました。安三さんは中国から帰国後、桜美林学園を設立されました。新旭町に清水安三記念館があります。

その後、フリートークを行いました。参加者から「物事が上手くいかないときは過去に原因があったのだと思うと受け入れ易い」、「孝の思想、少林寺拳法、ヨガの死生観に共通しているものがあると思った」、「『鑑草』の時代と現代の時代背景の差はあるがその精神は現代にも十分価値があるものと思える」等の意見、感想をいただきました。学ぶは愉し!